

研究

競争的環境により、「世界トップレベルの研究」を創り出す

【ビジョン】

関西学院大学における研究は、各教員が自らの意思に基づいて、それぞれの分野での先端的研究に取り組み、知の創造や社会への貢献とともに、学生に最新の知識を還元し、教育の質を高めることが企図されている。こうした幅広い個別研究を推進・支援する環境・体制を整えて活性化することが第一義的に重要である。

一方で、研究機関として研究力の高さを社会に訴求して存在感を示すには、特定分野で世界トップレベルとなる研究を育て、大学としての「研究ブランド」を確立する必要がある。そのためには、一定の「核となる研究群」の中から競争による淘汰を経て勝ち残る研究と、戦略的に選ばれた分野・内容を計画的に育てる研究の二通りが想定される。研究成果に応じて学内資金の投入や人的支援を強化することで、本大学を代表する世界トップレベルの研究を創り出す。

個別研究の活性化や世界トップレベルの研究創出には新たな資源が必要となるが、収入の8割近くを学生生徒等納付金に依存している現状や¹²、他大学と比較した個人研究費の手厚さ等を鑑み、必要な資金は科研費や官公庁の助成金、民間の共同研究・受託研究など外部から獲得することを原則とする。このため産官学連携を推進し、核となる研究群には関西学院が産業界や官公庁と連携を行うなどして外部資金獲得を促進するとともに、支援体制を強化する。加えて、本大学独自の客観的な評価基準を定め、評価の高い研究者や若手研究者へ学内の研究費を傾斜配分するといった競争的環境の整備も検討する。

¹² 「KG Campus Record No.91（2016年度予算）」では78%、「2015年度決算書」でも78%。